



### 吉田病院の理念

医療の主人公は患者さま、生活者のみなさまです。  
わたくしたちは、

- 一. みなさまにわかりやすい説明と必要な情報を提供し、同意に基づく医療を進めます。
- 一. みなさまの人格、プライバシーを尊重します。
- 一. みなさまにまごころをこめて、親切に接します。
- 一. みなさまに必要な医療を地域と連携して提供します。
- 一. みなさまにより良い医療を提供できるよう、自らを磨きます。
- 一. みなさまの健康増進のために、全力を尽くします。

## 吉田病院ガイド



## 新しい先生をご紹介します

4月から当院一般内科を担当している、  
上田修先生にお話を伺いました

外来は一般内科を担当しています。専門は小児内科と内分泌代謝です。いわゆる小児科のお医者さんとして子供たちのいろんな病気の診察を行ってきたとともに、内分泌代謝疾患の診察を行ってきました。内分泌というとどんな病気かピンとこないかもしれません。身長 of 異常（高身長・低身長）、体重の異常（過体重・低体重）、体型の異常（肥満・やせ）、思春期の異常（乳房が早期に出てきた・まわりに比べて二次性徴が遅い）、甲状腺の病気、糖尿病、脂質代謝異常、脳腫瘍や放射線治療後の内分泌異常などが内分泌代謝科の病気です。これらの病気はいつ発症したのかわからないことが多く、なんとなく調子が悪い、他の人と違っているなどの症状が数か月から数年にもわたって続き、やっと診断されることも少なくないです。またこれらの病気は発症するとすぐ直るものではなく、多くは一生、病気と付き合いをしなければならぬものです。患者さんが生涯付き合っていく病気治療に少しでもお力になれるように努力させていただきます。



上田 修

旭川医科大学医学部卒業  
日本小児科学会小児科専門医  
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医  
日本救急医学会救急科専門医

上田先生にお尋ねします！！

## はしか 麻疹Q&A

**Q 1. 近年若い人達の間で流行している“麻疹（はしか）”ですが、その流行の原因は何でしょうか？**

A 1. 麻疹は非常に伝染力が強く、小児の死亡原因として恐れられていました。昭和53年より麻疹ワクチンが導入されたため、大きな流行がなくなりました。現在30歳代以上の人は自然に麻疹になり抵抗力（抗体）を持っている人、20歳代以下の人は麻疹ワクチンで抗体を持っていることとなります。一旦獲得した抵抗力も数年すると低下してきます。ところが麻疹の患者さんに接触すると、再び抵抗力が増えてきて自分自身は麻疹を発症しないようになります。これをブースター効果といいます。近年は麻疹の流行がなかったためにブースター効果で抵抗力を増強することができず、抵抗力を失ってしまった方が麻疹を発症しているようです。

また平成元年より麻疹・おたふくかぜ、風疹の混合ワクチン（MMR）が開始されました。このワクチンは無菌性髄膜炎の副作用のため4年間で中止となりましたが、この期間中、ワクチン接種率が低下したため、抗体を持っていない方がいらっしやいます。

この二つのことがちょうど重なり合っているのが、いま麻疹を発症している高校生から20歳代という年代なのです。



**Q 2. 具体的にどのような症状が見られた場合、麻疹を疑えばよいですか？**

A 2. 麻疹は麻疹ウイルスの感染によっておきる急性感染症です。そのため一般的な風邪のような咳、鼻水、くしゃみ、発熱、目の充血がみられます。数日の発熱後に39度以上の高熱が出現し、顔から全身に広がっていく発疹があらわれ、非常に重篤感があります。

麻疹は空気感染するため、同じ空間に麻疹患者がいると、抵抗力がない人は麻疹を発症してしまいます。ですから、自分のワクチン接種歴と周囲での麻疹発症状況なども参考になります。

**Q 3. では“麻疹かな？”と思った際にはどのように対応・行動をすればよいでしょうか？**

A 3. 麻疹は空気感染するため、抵抗力のない人と同じ空間にいると伝染していきます。“麻疹かな？”と思った場合には、学校や職場にすみやかに連絡するとともに、病院を受診する際には事前に電話で「麻疹の疑いである」ことを伝えてください。買い物のためスーパーに行ったり、バスに乗ったりしても、伝染の危険があります。とにかく家で安静にしているのが一番です。

**Q 4. 予防対策や早期発見のための検査、罹患後の治療等にはどのようなものがありますか？**

A 4. 麻疹の予防策として有用なのは、予防接種です。現在は基本的に、麻疹風疹混合ワクチンを1歳のときと小学校入学の前の年に受けることになっています。また今年から5年間は中高生から若年者の発症抑制のために中学1年生と高校3年生での麻疹風疹混合ワクチンの接種が行われます。

WHOの麻疹排除ガイドラインでは、麻疹発症の可能性があるときは血清麻疹I g M検査を行うことがすすめられています。数日後に結果が出ますので、それまでは自宅で安静にしていることが必要です。

麻疹の治療法には、特効薬がありません。水分を十分にとって、自宅で安静にしていることです。咳、鼻水などの症状に対しては対症療法として風邪薬を服用します。麻疹は中耳炎や肺炎の合併症が多いため、もし合併症を併発している場合にはそれらの治療も合わせて行っていきます。



**Q 5. それでは上田先生、最後にひとことメッセージをお願いします**

A 5. 平成19年春にカナダを修学旅行で訪れた高校生が麻疹を発症し、修学旅行生がカナダに足止めされるという事件が起きました。アメリカ大陸やヨーロッパ、韓国では国内の麻疹発症がほとんどゼロです。一方日本は「麻疹輸出国」といわれ、笑い者にされています。WHOでは2012年を日本の麻疹排除目標年と設定して、麻疹排除に向けてワクチン接種の強化、麻疹発症状況の全数調査などの取り組みがなされています。みなさんができることはワクチン接種を行い、集団の免疫機能を高めることです。周りの人に迷惑をかける伝染病にならないように、心がけてください。



医療法人社団 慶友会 糖尿病・生活習慣病センター

# 第1回 医学講演会

【学会・講演会報告】  
▼糖尿病・生活習慣病センター  
第一回 医学講演会

去る、平成二十年四月二十六日(土)に大雪クリスタルホール大会議室にて開催された第一回 医学講演会は、およそ二百二十人の来場者の皆様を迎え大盛況に幕を下ろしました。

はじめに当院理事長 吉田威より開会の挨拶が述べられ、

今や現代人の脅威と言っても過言ではない糖尿病・生活習慣病についてのこの医学講演会開催が、来場の皆様にとって有意義なものとなればと、力強く語りました。



### 【演題】

演題名『糖尿病・生活習慣病センターについて』

演者 医療法人社団 慶友会 糖尿病・生活習慣病センター長 岩島 保法 先生

当院糖尿病・生活習慣病センター長 岩島先生は生活習慣病は内臓脂肪と密接な関連があるため腹囲や内臓脂肪面積の測定を行い、疾患との関連性の説明や減量への動機付けとして利用していることなど身近な話題にふれながら語りました。皆様大変興味深く聞いていらつしやる様子でした。



### 【特別講演】

演題名『メタボリックシンドロームと糖尿病』

演者 旭川医科大学 病態代謝内科学分野教授 羽田 勝計 先生



羽田先生からはメタボと糖尿病がいかに関わり深いか、「死の四重奏(肥満・糖尿病・高血圧・脂質異常症)」が生活習慣にいかに関与しているか、恐ろしい影響を与えるかなどを、スライドや写真を用いてわかりやすく説明して下さいました。ご来場の皆様も時間を忘れてしまうほど夢中になって聞いていただきました。改めてお忙しい中ご来場いただいた皆様、誠にありがとうございました。

## 外来診療担当医師シフト表

		月	火	水	木	金	土
午 前	内科 その他	武田寛樹 (循環器・内科)		武田寛樹 (循環器・内科)	武田寛樹 (循環器・内科)		(武田寛樹)  (馬場勝義)  (横田欽一)  (上田修)
		平井克幸 (血液・内科)	馬場勝義 (一般内科)	平井克幸 (血液・内科)	馬場勝義 (一般内科)	平井克幸 (血液・内科)	
			横田欽一 (消化器・内科)	横田欽一 (消化器・内科)	横田欽一 (消化器・内科)	横田欽一 (消化器・内科)	
		鈴木まゆみ (呼吸器・内科・漢方)	鈴木まゆみ (呼吸器・内科・漢方)	鈴木まゆみ (呼吸器・内科・漢方)	鈴木まゆみ (呼吸器・内科・漢方)	鈴木まゆみ (呼吸器・内科・漢方)	
			【呼吸器】 大崎能伸(旭医大)		【漢方】 村主明彦 予約制	【呼吸器】 豊嶋恵理(旭医大) 【循環器】旭医大	
	外科	工藤浩市	工藤浩市	工藤浩市	工藤浩市	工藤浩市	(工藤浩市)
	整形外科	井上謙一	塩野雄太 慶応義塾大学整形外科	井上謙一	井上謙一	井上謙一	(井上謙一)
	糖尿病・ 生活習慣病 センター	岩島保法	岩島保法	岩島保法	岩島保法	岩島保法	(岩島保法) (岡田瑞穂)
		岡田瑞穂	岡田瑞穂	岡田瑞穂	岡田瑞穂	岡田瑞穂	
	肝臓病センター	長谷部千登美	後藤賢一郎	長谷部千登美	後藤賢一郎	長谷部千登美	(後藤賢一郎) (長谷部千登美) (大竹孝明(旭医大))
後藤賢一郎		紀野修一(旭医大)		長谷部千登美	後藤賢一郎		
午 後	内科(前半)	横田欽一	岡田瑞穂	鈴木まゆみ	岩島保法	武田寛樹	
	内科(後半)	上田修 (石黒俊哉)	鈴木まゆみ	上田修 (長谷部千登美)	鈴木まゆみ	上田修 (鈴木まゆみ)	
	その他		【整形外科】 ★塩野裕太 慶応義塾大学整形外科		【漢方】 ★村主明彦 予約制 北里研究所 東洋医学総合研究所		

**特殊外来等のご案内**

- 眼科 毎週木曜日(午前):旭川医大眼科新直診
- 婦人科 毎週木曜日(午前):佐久川 直子(旭医大)
- 甲状腺 毎月第四土曜日:島袋 嘉成(島袋外科医院)
- Keiukaiニッパ 月曜日~土曜日:野村学

※各医師の都合により診察日・時間等の変更がある場合がございます、どうかご了承下さい(受診の際は事前にお問い合わせ下さい)

※土曜日の診察医師は交代制となっております

※午後内科外来の時間は、前半13:30~15:30  
後半15:30~18:00です

※出張医・派遣医は青文字で記載しております

※★印の塩野医師・村主医師の診察は16時までとなります

※上記のシフト表は平成20年5月1日現在のものです



内科・循環器科・呼吸器科・消化器科・外科・整形外科  
 歯科・口腔外科・リハビリテーション科・放射線科・眼科

月・木 8:30~19:00  
 火・水・金 8:30~18:00  
 土・日 8:30~13:00

旭川市四条西四丁目  
 TEL (0166) 25-1115  
<http://www.keiyukai-group.com>

